「無関心」という言葉

「ふたつの世界大戦を超えて」より

エリ・ヴィーゼル

愛の対極にあるのは憎しみではない
無関心である
美の対極にあるのは醜さではない
無関心である
知の対極にあるのは無知ではない
それもまた無関心である
平和の対極にあるのは戦争ではない
無関心である
生の対極にあるのは死ではない
無関心、生と死に対する無関心である

株式会社文藝春秋
「文藝春秋」2000年新年特別号（第78巻第1号）より引用

エリ・ヴィーゼル（Elie Wiesel　1928～）は、ルーマニア出身のユダヤ人で、アメリカで作家として活動しています。反人種差別の運動に積極的に取組み、1986年にはノーベル平和賞を受賞しました。

彼は、第二次世界大戦末期の1944年に家族とともにアウシュヴィッツ強制収容所に送られ、そこで両親と妹を失いました。これは、ナチス・ドイツが反ユダヤ主義に基いて組織的に行った大量虐殺（ホロコースト）によるもので、ユダヤ人だけで約600万もの人たちが命を奪われたと考えられています。また、その他にも多くのロマ民族や障がい者、同性愛者の人たちが「劣等人種」・「生きるに値しない命」として殺されていったのです。

ホロコーストは、人種をはじめとする差別主義がもたらした、第二次世界大戦における最大の悲劇と言えます。しかし、ホロコーストへとつながっていったナチス・ドイツによる反ユダヤ政策に対して、周辺の国々は積極的な対策を取ろうとはしませんでした。

そしてこのことは、ユダヤ人の隣人として同じ地域に生活していた一般市民においても同じでした。自分や家族の安全との引き換えに、他者の苦しみへの「無関心」を貫いた結果、誰もホロコーストを止めることができなかったのです。

様々な差別や人権課題が存在する現代にあって、私たちは、他者の苦しみに対して「無関心」であってはならないのです。

UN Photo/Evan Schneider Auschwitz-Birkenau , Poland
写真は、2013年11月18日のパン・ギムン国連事務総長のアウシュヴィッツ訪問。

※ロマ民族・・・インド北西部を発祥の地とし、ヨーロッパ全域に広く居住する民族。かつてジプシーと蔑称され、今も様々な差別を受けている。